令和５年度第１回北九州市子ども読書活動推進会議　会議録（要旨）

１　日時　　　令和６年２月９日（金）１４：００～１５：３０
２　場所　　　北九州市立子ども図書館２階　大研修室

３　出席者
［委　員］（敬称略）
山元悦子、矢崎　美香、河井　律子、本田　壽志、上満　佳子、小島　松美、久間　猛、仲　紀子、尾場瀬　淳美、内藤　稚代、鶴田　弥生　計１１名
［事務局］教育委員会中央図書館長柴田憲志　他９名

４　議事
（１）「北九州市子ども読書プラン（第４次北九州市子ども読書活動推進計画）」の取組状況について
（２）子ども電子図書館の利用促進について

５　主な質疑応答
【議事１】「北九州市子ども読書プラン（第４次北九州市子ども読書活動推進計画）」の取組状況について
（委員）（１）資料１北九州市子ども読書プラン（以下「子ども読書プラン」という。）の「成果指標（方向性Ⅰ）①学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）読書を全くしない児童生徒の割合（不読率）」について。「読書」の定義は何か。本を一冊読むということか。一冊読み切れない場合に「全くしない」とカウントされているのではないか。
（２）資料１子ども読書プラン「成果指標（方向性Ⅱ）④放課後や休日等に学校図書館や地域の図書館を週１回以上利用する児童生徒の割合」について。現状として図書館を利用できるような環境にあるかどうか。学校図書館が、放課後に開放状態にあるかどうかの実態をお答えいただきたい。
（３）資料１子ども読書プラン「成果指標（方向性Ⅲ）⑥読書好きな保護者・家庭の割合」について。読書とは紙媒体のみか、デジタル書籍も含めた数値なのか。それによって大きく変わってくるので内訳がわかれば教えていただきたい。
（４）資料２の「学校図書館職員・図書館主任合同研修会の実施」について。研修は講義形式か。ワークショップ形式やディスカッション等の何らかの成果等を示す形式のほうが良いのではないかと思う。

（５）資料２の子ども司書養成講座について。取組みとしては非常に良いと思う。しかし、この講座に参加しても北九州市では正規の図書館司書の採用がないため、夢をいだいても実らない。講座を実施して人数が増えたという成果だけではなく、子どもたちに夢をもたせて、読書ってこんなにひろがりますよと伝えてほしい。ご検討いただけないか。

（６）資料２「新たな施設との連携」の中で子ども読書の日がある。司書課程の学生が、人手が足りないということで、いろいろな図書館に応援に行っている。他の図書館と同日に実施しているが、参加者の取り合いになるともったいない。日程調整をして相互に実施して相乗効果を高めてはどうか。

（事務局）（１）「読書を全くしない」の定義について。学校で、教師から子どもたちに、一冊読めなくても良いと説明をしてもらっている。一冊読めるまとまった時間を取ることは難しいので、隙間時間にいつでも読めるように引き出しに本を入れ、２～３分でも読めるような活動を日々重ねているところである。定義を説明しても、小さい子どもなどには意図が伝わりにくいところがあるため、回答が完全でない部分があるかもしれないが、ある一定の傾向は表せていると思う。

（２）図書館の利用については、この１０年間で、学校図書館完全開放として朝から放課後まで開館している状況。授業中はもちろん、休み時間であっても、子どもたちが活用できるような状況になっている。

（３）読書好きな保護者・家庭の割合の調査では、特にデジタル書籍・紙媒体といった設問をしていないので、回答者の受け止め方による。申し訳ないが内訳は不明である。

（５）子ども司書養成講座について。司書採用がないという状況は承知しているが、私どもの力ではいかんともしがたく、良い環境ができることを願っている。この講座は、受講した子どもたちが皆、司書になることを目指しているわけではなく、司書の疑似体験をすることで、一人ひとりが本に親しみ図書館に親近感を持つ、そういったことで読書活動を深めていく１つの手だてとして考えている。ご理解いただきたい。

（６）施設との連携について。子ども図書館から各地区館・分館に対して、北九州市子ども読書の日に合わせて同時開催とし、いろいろなイベントを実施してもらうよう依頼している。日程調整ができていないとも言えるが、逆に、子ども読書の日は、全市を挙げてどこでも大きなイベントをやるというのも、盛り上げるための手だてだと思っている。調整できる部分については調整しながら、今後、しっかりと取り組んで参りたい。

（事務局）（４）学校図書館職員・図書館主任合同研修会について。令和４年度からこの研修会を実施している。地区図書館と学校図書館及び学校との連携強化をしていきたいと思っており、今年度、研修内容を少し変更した。地区図書館の次長などに参加してもらい、講義形式もあるが、学校図書館職員の様々な相談を受けたり、意見交換会をすることができた。さらに、地区図書館の次長から実際に図書の配架や、ブックカバーの付け方など、実務的なことを学ぶ機会もできた。研修とは違うが、不登校支援センターなどでも地区図書館員に読み聞かせをしてもらうなど、様々な連携強化を行っているところである。まだ、いろいろな可能性があると感じているので、研修内容等も工夫しながら取り組んでいきたい。

（委員）　この連携強化について興味があるが、意見交換の中で、どのような新たな連携のスタイルができたのか伺いたい。

（事務局）　まだ実現はしてないが、来年度以降の方向性として、中学校区に一人いる学校図書館職員が地区図書館に集まって、地区図書館員と一緒にブロック研修会ができないか。小学校の図書委員会の時間に、地区図書館員に学校訪問をしてもらいアドバイスをもらいたい。地区図書館の展示ルームに子どもたちが作った学校の作品などを飾ると、親が図書館に行くきっかけになり、図書館の活用に繋がるのではないか。などの案があがっている。

（委員）　いいアイデアだと思う。今後もいろいろなアイデアを持ち寄り、話し合いをする情報交換の場を作ると素晴らしいことだと思う。

（委員）　地域学校協働活動推進委員をしており、中学校と若松図書館との連携を模索しているところである。中学校の本の好きな子どもの知識が深く、人にすすめたいという思いが大きいので、若松図書館に相談したところ、いつでも中学生おすすめコーナーを準備してくださるということで、来年度以降できるといいと思う。

　施設との連携について。若松には火野葦平の河伯洞がある。司書の知識を持ったスタッフが読書に関するアプローチをしてくれるので、本への扉が開かれる。各区にも良い施設があると思うので、ぜひ掘り起こしをしていただきたい。

　アンケートについて。読みたい本をたずねると、その本が学校図書館にあるかどうかを調べたりすることに繋げることができるのではないか。

（委員）　連携施設の掘り起こしについて、お集まりいただいた有識者のみなさまにご意見いただければと思う。

（委員）　北九州市の轟先生が、市の文学やお祭りについての本を書かれているので、連携施設の掘り起こしの参考にされてはどうか。

（委員）　子ども図書館が、地区館ごとに地域の施設の掘り起こしをする仕組みづくりをして、それぞれの地区館が掘り起こしをすすめていくことが効率的で地域にばらつきのない形でできるのではないか。

　子ども司書養成講座とジュニアサポーター活動では、担当の先生を決めて、各学校で子どもたちに活動させているということで、とても良いことだと思う。もう少し内容を詳しく知りたい。

（事務局）　子ども司書養成講座の担当の先生というのは、各学校の窓口となる人。講座を受けた後、学校で活動するときに、学校図書館職員・国語科教師・図書主任・教務主任など学校によって違うが報告書を提出してもらう。全校ではなく、講座の参加者がいる学校のみなので、学校毎に依頼をしている。講座で習った、書架の整理の方法、ポップ作り、校内ビブリオバトルのイベントなどを、学校・学級で実施した際の報告書をいただいている。

（委員）　ジュニアサポーターについて。子ども図書館ができたときに、他県の子ども図書館を見学して、子どもたちが自ら活動するＹＡ（ヤングアダルト）研究会のような、部活動のようなものはどうかと提案した。おすすめ本のポップは、現在は壁に展示しているが、年に一度、ホチキス留めでもいいので冊子にして、活動の結果を可視化して形に残してはどうか。

　子ども読書の日には、各学校で好きな本を書く、ボランティアによるおはなし会、６年生が１年生に読み聞かせをするなど、様々な活動をしている。各学校でどのようなことをしているか把握されていれば伺いたい。

（事務局）　ジュニアサポーターの活動の年間の成果物については、考えを取り入れたいと思う。月に１回、第２又は第３の土曜日曜日のどこかに参加するため、全員が一斉に集まることができていないが、唯一、全員で子ども読書の日に向けて、おすすめ本のポップやしおりを作る活動をしてきた。冊子などの形に残すと、それを展示したり、今後に繋がっていくのでぜひ取り入れたいと思う。

（事務局）　貴重なご意見をありがとうございます。以前いただいたご意見も、かつての議事録を読み勉強させていただき、各図書館の活動についても調べた。広島の自分たちで新聞を作る活動など、見るだけで楽しく活動していることが伝わってきて素晴らしいと思う。いろいろな形で何とか取り入れて、今の活動を深めていきたいと計画をしているとこ

ろである。活動を始めて日が浅いため、まだ言われたことだけをやっている状況だが、力を持っている子どもたちなので、やってみたいことが少しずつ出てきている。それを吸い上げて、活動を広げていっているような状況である。

（事務局）　子ども読書の日について。学校図書館職員に取組みについてアンケートをとった。松ヶ江北小学校のブラックシアターの取組みなども見せていただいた。取組みをされているところには、研修会で発表をしてもらったり、グループ研修会で情報交換をさせていただいている。

（委員）　いくつか提案をさせていただく。統計の数字はとても大切なものなので、アンケートを取る際に、きちんと条件を設けて実施し、統計の数字がより現状を表したものになることができるように努めてほしい。

　子ども司書養成講座・ジュニアサポーター制度は本当にいい活動だと思う。ただ、一般的に司書の資格をとって希望を持っても、ほぼ採用がない。また司書の収入では家族を養えない現状がある。市の予算の関係もあると思うが、学校図書館司書も、司書として働きたいという子どもたちの活躍の場の一つとなればよいと思う。

　北九州市立文学館には北九州ゆかりの作家に詳しい学芸員がたくさんいる。市民カレッジで学芸員にご登壇いただくが、映像を使って大人から子どもまで非常にわかりやすく文学（小説・詩・エッセイなど）の話をしてくれる。地区図書館も学校図書館も活用されるといいと思う。

【議事２】子ども電子図書館の利用促進について

（委員）　常に子どもの本を探していながら電子図書館は盲点だった。子どもにも大人にも宣伝をして、ここから子どもたちに本を手渡す、読書の習慣を伝えていけるとよいのではないか。読み聞かせやブックトークの現場でも活かせると良いと思うので、図書館に入っているボランティア、子どもに関わっている大人に向けて伝えていただけると、利用者も増え広がっていくのではないか。私もすぐに利用します。

（事務局）　ありがとうございます。まさにその通りだと思う。これまでもいろいろな形で周知をしてきたが、現在、教育委員会発行の「未来をひらく」という広報誌に子ども電子図書館の記事を掲載する準備をしている。３月に北九州市の小中特別支援学校の児童生徒に配られるので、全家庭に行き渡る予定。それから、利用登録の方法については、これまでは、各学校に児童生徒用のＩＤとパスワードを配り、一般の方は、図書館カードをお持ちの方はメールで申し込み、カードのない方はご

来館いただくこととしていた。これからはＱＲコードで電子登録できる仕組みを準備しているところで、こちらも間もなく利用可能となる。また、ホームページに大きなバナーを載せて紹介したりと、周知に努めているところである。

（委員）　来年度、石峯中学校で電子図書を活用することにモデルケースとして取り組むこととなった。今日、音声が聞けるということがわかったので、読書が苦手な人も音声を聞きながらであれば、文字が追えるのではないかと思った。このモデルケースをきっかけに、子どもたちに普及していき、各学校でも広がっていくと良いと思う。

（委員）　市民センターで、大人には市民講座、子どもには生き生き子ども講座で、電子図書館の使い方をしっかり教えていただければ、子どもたちは軽やかに使っていくと思う。また若いママたちも図書館に足を運べない、車で行けないと言われるが、親子ふれあいルームなどで積極的に広報すれば、すぐに広がっていくのではないかと思う。

（委員）北九州市は大きいのでできるかどうかわからないが、町立図書館などでは、来館した子どもたちに個別に使い方を教えている。子ども読書の日でもいいが、電子図書館の使い方を、１人でも２人でもいいので教えることで定着していくという方法もあるのではないか。大人も子どももパソコンに長けている人ばかりではないので、イベントや講座だけではなく、来館した人に教えるという方法も有効なのではないか。

（委員）　提案を４点。パソコンやタブレットなどの機器の家庭での状況の調査をしているか。機器があっても家庭で使用を制限されている可能性もある。各家庭で、どの程度子どもたちが自由に電子書籍を読める状況にあるのか、実態調査が必要ではないか。

　ホームページからアクセスする際、子ども電子図書館は、下のほうにバナーがあってわかりにくい。北九州市立図書館のトップページの大きな写真があるところにバナーを載せれば、大人の目にも留まり、宣伝になる。利用者目線で考えたほうが良いのではないか。

　現在、一人につき１アカウントとなっているが、利用状況に合わせて２～３アカウント利用できるようにしたほうが良いのではないか。

　実際、先ほど説明された機能を自分のタブレットで操作してみたが、うまく使えない部分があった。パソコン版とタブレット版のマニュアルを見たいと思っても、探しにくかった。利用者からみると使い勝手が悪いということで、利用が進まないのではないかと思った。

（委員）　子ども電子図書館に「読書感想文集」が掲載されている。ここには、北九州市の作品が掲載されていて、掲載された子どもたちは読むと思うが、このビジュアルをもう少し整備すると利用率があがるのではないかと思う。読書推せん文コンクールの資料をお配りしたが、これには、すすめたい相手に簡単に本の紹介をしていて、こういうものがあると感想文を書くときに役に立つので、このような見せ方をしてはどうかと思う。

　子ども電子図書館のマイページの加工ができるのであれば、読んだ本の記録をして、それがお互いに見られて、知らない読者との意見交換や情報交流ができるページになると、新たな利用につながるのではないかと思う。

（事務局）　たくさんのご意見ありがとうございました。いただいたアイデアを一つひとつ内部で検討して、できるものはしっかり実現していきたいと思う。

　例えば、ホームページで下のほうにバナーがあって見にくいという問題。中央図書館のホームページのトップ画面には、図書館の全景の写真が載っているが、それをスライドで動くようにして、子ども電子図書館や雑誌スポンサー制度などの、タイムリーな情報をお伝えできるよう、準備を鋭意進めているところである。

　それから、子ども電子図書館というのはそもそも児童生徒１人１台端末（タブレット）の活用ということでスタートしているため、その実態調査を特段電子図書館のためにはしていない。各家庭のＷｉ－Ｆｉ状況などは、ＧＩＧＡスクール構想の中で、今、どのぐらいの家庭で環境が整っているか、どういう機器が使えるかなどの調査をしており、それを基に私たちも動いているところである。

　すべてのご質問にお答えはできなかったが、いただいたご意見をしっかりと受けとめ頑張って参りたい。ありがとうございました。